

東日本大震災  
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2020.8.11

Vol.  
**51**  
August, 2020

ナウイズ  
毎月11日発行

# NOW IS.

蝶野正洋

in  
気仙沼





命を張った消防団員は  
まさにスーパーマン。

NOW IS. 対談

Talk Session

in 気仙沼  
KESENNUMA

# 発災直後、最前線で 命を張った 「消防団」という存在。

30年以上前から、プロレスの興行で何度も気仙沼を訪れているという蝶野正洋さん。2010年からAEDの啓発活動を行い、日本消防協会の「消防応援団」も務めています。そんな蝶野さんが、「東日本大震災をきっかけに知った」という消防団の存在。今回は、気仙沼市消防団団長の菊池賢一さんに、震災当時の知られざる消防団の活動についてお話を伺います。

※屯所：消防団の詰所

## Chono Masahiro 蝶野正洋

ちようの  
まさひろ

PROFILE

1963年生まれ。東京都三鷹市出身。プロレスラー、タレント。近年では「AEDを使った救急救命」と「地域防災」の啓発活動に力を入れている。東日本大震災の後は、避難所へ支援物資を届けたほか、チャリティーマッチや被災地訪問も行った。

蝶野「そんなに早いですか！  
菊池「でも、第一波はさほどでもなくて。大きいのは第二波だったんですよ。  
蝶野「揺れはどうだったんですか？建物の倒壊は？  
菊池「電信柱が揺らぐほど、激しい揺れでした。でも、地震で建物の倒壊はほとんどなかったんです。高台に避難して海を見ていました。真っ黒い水面が浮き上がってくる感じでしたね。  
蝶野「現実とは思えないような光景が広がっていたんですね。」

俺、東京消防庁の活動のお手伝いをしてるんですけど、震災では250名近くの消防団員が亡くなったと聞いて。沿岸の消防団の方たちが命を張っていたのに、あまり報道されないじゃないですか。それに、気仙沼は火災もあって…。地震、津波、火災と本当に大変でしたね。  
菊池「流された石油備蓄タンクに引火して、それが波で押されて住宅が燃えました。我々消防団には、12日の昼すぎに消防活動の要請があって、現場に向かいました。13日には東京消防庁

のポンプ車が50台以上来てくれて、数日かかって消火しました。蝶野「現場に行こうと思ってもがれきがあつて大変だったんじゃないですか？  
菊池「気仙沼市消防団にはバイク隊があるので、団員は2台一組になって各地を巡り、被災の状況などの情報収集に奔走しました。  
蝶野「要請が来たら、バツと着替えて現場に行くわけじゃないですか。本当にスーパーマンですよ。普段は別の仕事をして、それでちゃんと訓練もして…って。

頭が下がります。だから俺、イベントに参加して、消防団募集のお手伝いをしてるんです。消防団の存在を知らない人が多いし、集合住宅や新興住宅地だと、地域に消防団があるのを知らないんですよ。  
菊池「気仙沼もそうですが、全国的に消防団員が減っています。蝶野「縦社会に入りづらいとかいろいろ理由はあるんでしょうけれど、消防団の歴史はずっと長いから、時代時代が変わっていいんじゃないかと思うんですよ。役割もいろいろあるから、体力的な

## Kikuchi Kenichi 菊池賢一

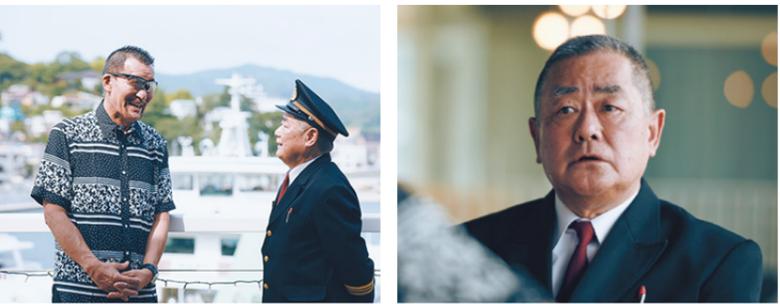
きくち  
けんいち

PROFILE

気仙沼市消防団団長。気仙沼市出身で、市内でクリーニング店を営んでいる。消防団に所属して41年。ひとつとして同じ災害現場はないため、常に訓練を行うこと、団員同士の結束を強くすることを心がけている。



あの時は、ただただ  
夢中で動いてました。





BLACK TIDE BREWINGの丹治和也さん(写真左)とジェームズ・ワトニーさん(写真右)。



缶ビールのラベルは、気仙沼在住のデザイナーとタッグを組んでデザインされました。

久しぶりの気仙沼で様々な「人」に出会った蝶野さん。「丹治さんも言ってたけど、気仙沼は「人」ですね。あつたかくてパワフル。俺、震災から数年間、気仙沼に通っていたけれど、どうしてもそのときは「被災地、被災された方」という風にしか見ていなかったのかもしれない。今日、本来の気仙沼の姿を見られたのかな、と思います。そうやって、蝶野さんは大きな変化を遂げたまちを後にしました。

俺は、今日初めて  
本来の気仙沼の姿を  
見たのかも。

った内容が書かれていたんです。ああ、こういう方に届けていたんだ、と涙が出るほどうれしかったですね」と話す菅原社長に、蝶野さんも「誠実にお酒を造っているからこそなのでしょうね」と、感心しきりでした。

「人」が魅力的で、  
移住を決意した。

最後は、今年7月にグラントオープンしたばかりのクラフトビール醸造所である「BLACK TIDE BREWING」へ。プリユワ（醸造士）の丹治和也さんと

会った蝶野さんは「海賊がいるのかと思ったよ!」と笑います。蝶野さんに負けず劣らずの体格の丹治さん。実は、震災後にボランティアで気仙沼を訪れ、移住を決めたのだそう。その理由を聞くと「気仙沼は、とにかく人があつたかいいんです。もとも僕は自動車の設計をしていたんですけど、ビール好きが高じてプリユワになって。気仙沼でブルワリーがオープンするということを知って、見つけて、これは行くしかない!と思ってたんですよ」と教えてくれました。そんな丹治さんに「本当は素敵な女性がいたんじゃないの?」と突っ込む蝶野さん。丹治さんは「それならいいんですけど。おかげさまで、おじさま方からかわいがっていただいています」と笑います。



工場は、店舗の横に隣接されています。

ここに注目!  
NOW IS. EYE'S

7月18日、気仙沼市内湾地区に「ないわん」がグランドオープンしました。これは、「迎(ムカエル)」「結(ユワエル)」「拓(ヒラケル)」「創(ウマレル)」の4つの商業観光施設の総称。気仙沼観光の拠点となります。

震災で見えた、  
お客様の「顔」。

大正元年(1912年)創業の老舗酒蔵である「男山本店」。東日本大震災では、酒の販売と本社機能を有していた店舗が津波で被災。国の有形文化財とし

て登録されていた貴重な3階建ての建物でしたが、3階部分のみが残されました。「本当は、残された部分も壊してしまおうかと思っていたんです。でも、「絶対に残したほうがいい。再建しよう」と言ってくださる方がいて、国内外の財団からの寄付や

補助金をいただきながら、流失した1、2階部分を再建してオープンさせました」と話すのは、4代目店主である菅原昭彦さん。在りし日の姿を取り戻した港町のランドマークの前に、蝶野さんも「すこく立派ですね!」と感嘆します。

お二人が談笑していると、ビールの仕込みを終えた工場長のジェームズ・ワトニーさんが「ハロー!」と顔を出し、「よかったら、工場の中にどうぞ」と案内してくれました。「ここではどんなスタイルのビールを作っているんですか?」と問いかける蝶野さんにジェームズさんは「僕はアメリカのポートランド出身なので、アメリカンスタイルのものが多いです。ホップの香りが強いものが主流かな」と話してくれました。そして「おいしいビールを作る秘訣は?」と聞くと、丹治さんとジェームズさんはお互いの顔を見合わせながら「髭?」と笑いあいました。



2020年7月15日、9年4カ月ぶりにオープンした男山本店の魚町店舗。

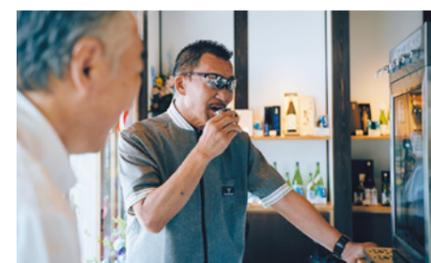
酒にしよう!と決めました。多くの方々が様々な形で助けてくださったおかげで、震災後もお酒を造ることができました」と。その活動はテレビをはじめとするメディアに多く取り上げられ、全国に配信されました。すると、九州在住の方から手紙が届いたのだそう。「そこには『私の高齢の父親は、伏見男山での晩酌を毎日の楽しみにしています。今回、被災されたと聞いて父も大変落ち込んでいましたが、ニュースでお元気な姿を拝見して父も元気を取り戻しました!』とい



男山本店の4代目店主、菅原昭彦さんと、再建された店舗にて。

# パワフルな人がいる これこそが、気仙沼の 魅力とチカラ

Visit  
気仙沼  
KESENNUMA



再建された店舗の1階で試飲する蝶野さん。

開したんです。もろみ、というお酒のもとになるものが残っていて、それをちゃんと搾ってお



被災を免れた建材を再利用している3階は展示室となっており、震災の被害や再建までの歩みなどをパネルで紹介しています。



1 仙台国際センターに設置されている「HONEY ROOM」。2 考案時のミニチュア試作模型とコンセプト紹介のパネル。3 (左から)高泉 沙知恵さん、浅野 陽菜さん、鈴木 楓由さん。経済産業省特許庁に「HONEY ROOM」の意匠登録出願が受理された時の様子。

## 宮城発の新たな防災備蓄製品

「東日本大震災当時小学生で、小さいながらも恐ろしいという記憶が残っていました。金沢市に入庁し、毎年職員を気仙沼市へ派遣していることを知り、今もまだ復興は続いているんだ、何か力になれないかと思ったんです。上司も背中を押してくれて、派遣職員に志願しました」と話す中本さんは、2020年4月に気仙沼市へやってきました。

「現在携わっている事業は今年度で終了予定なので、最後までしっかりとやり遂げたいです。そして金沢市に戻っても、気仙沼市で学んだことを活かせたら」と話してくれました。

**check! 01**  
安心して授乳できる空間を避難所に

「HONEY ROOM」は、段ボール製の避難所用授乳室。子どもを抱いたまま入りやすいようドアは設けず、入り口を3つの壁面で覆い、中は圧迫感を感じないよう、六角形にするなど、様々な工夫が施されています。

「2018年に仙台市から、『仙台防災未来フォーラム2019』（以下、フォーラム）に向けた、『避難所等で活用できる段ボール製品』の提案を学生にしてみたいかという話をいただきました。学生たちのアイデアの中から、プロが実寸大を製作し、フォーラムに出展するというプロジェクトでした」と話すのは、石井敏教授です。16の提案の中から選ばれたのが「HONEY ROOM」でした。「彼女たちの中には被災し、避難

**check! 02**  
企業との協働で防災備蓄製品に

実寸大を製作したのは、石巻市で強化段ボールを使った製品の梱包や加工などを手掛ける「今野梱包」。東日本大震災では、段ボール製の家具などを避難所に提供した会社です。被災者の心理に配慮したサイズ調整や、天井のブラインド状の窓など、今野梱包のアドバイスを取り入れ、より実用的な製品として完成。フォーラムでの評判がよく、多くのメディアでも紹介されました。

※「HONEY ROOM」の製品・購入に関する問い合わせ先: 今野梱包株式会社 ☎0225-76-3056

# NOW IS. 防災 BOSAI FRONT LINE

Vol.15

PROFILE  
東北工業大学 建築学部 建築学科  
建築学部長・建築学科長・建築学専攻長  
いしい まこと  
石井 敏教授



浜松市出身。1993年東北大学建築学科卒業。1995年東北大学修士(修士)。1997年~2000年ヘルシンキ工科大学(現 アルト大学)大学院留学。2001年東京大学大学院修士(博士)。2001年より東北工業大学講師。2010年より現職。専門は建築計画で、高齢者の介護施設や住宅、認知症のための空間環境のあり方に関して継続的に研究。



## 活躍する応援職員 SUPPORT POWER



気仙沼市ガス水道部 ガス課 技師  
なかもと しょうき  
中本 勝己 さん  
石川県金沢市から気仙沼市に派遣

「東日本大震災当時小学生で、小さいながらも恐ろしいという記憶が残っていました。金沢市に入庁し、毎年職員を気仙沼市へ派遣していることを知り、今もまだ復興は続いているんだ、何か力になれないかと思ったんです。上司も背中を押してくれて、派遣職員に志願しました」と話す中本さんは、2020年4月に気仙沼市へやってきました。

「現在携わっている事業は今年度で終了予定なので、最後までしっかりとやり遂げたいです。そして金沢市に戻っても、気仙沼市で学んだことを活かせたら」と話してくれました。



中本さんが最近訪れた気仙沼市の「赤坂公園」。山の斜面に約1万株のアジサイが咲き誇ります。

## INFORMATION from MIYAGI [宮城県からのお知らせ]

**01 移住相談専用 LINE公式アカウントを開設!**

さくっと移住相談！移住相談専用の「みやぎ移住サポートセンター LINE公式アカウント」を開設しています！専門の相談員がどんな小さな質問にもお答えします。QRコードからお気軽に「友だち追加」をお願いします！



●利用時間  
10時~18時(休:月・祝日・夏季休暇・年末年始)  
※電話・メール・対面での相談も受け付けています。

●みやぎ移住サポートセンター  
(東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階)  
☎090-1559-4714



**02 「宮城県震災復興パネル」の貸出について**

宮城の復興状況をまとめた「宮城県震災復興パネル」の貸出を行っています。防災等のイベントのほか、大勢の方がご覧になる場所で展示いただける場合には無料でお貸しします(送料は利用者負担)。全10枚のうち、枚数を指定した貸出も受け付けていますので、是非ご検討ください。

●仕様等  
サイズ:A1、枚数:10枚、  
貸出料:無料、送料:利用者負担

パネルの詳細は  
みやぎ復興情報ポータルサイトで検索



●県震災復興推進課  
☎022-211-2408

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!  
https://www.fukkomiya.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を開設しています！復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信しています。

# 宮城から、ありがとう。

全国各地、世界各国から寄せられた、たくさんの支援。  
宮城の復興は、そんな数多の想いで成し遂げられています。

SUPPORT FILE  
No.3

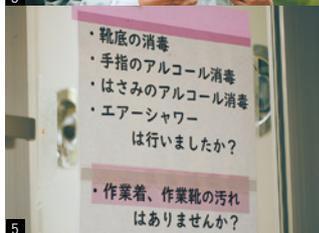
From 三菱商事復興支援財団など To 気仙沼市

## サンフレッシュ 小泉農園

「目指しているのは『持続可能な農業』それだけ」。そう話すのは、サンフレッシュ小泉農園の代表取締役、今野圭市さんです。サンフレッシュ小泉農園は、サーフスポットとして知られる気仙沼市小泉海岸のすぐそば。約4haの敷地に2haのトマト養液栽培のハウスが建つさまは圧巻です。約4万3千株のトマトの苗木を栽培し、年間約600tを出荷。

十数年前、建設会社を営んでいた今野さんは、農業への異業種転換を図り、福島県いわき市でトマトの大規模ハウス栽培農家を見た今野さん。「農具はもちろん、長

学。大規模園芸には、地域の未来があると感じました。当時の小泉地区は、小規模農家が点在し、今野さんの実家も含めてほとんどが兼業農家。大規模園芸で採算性を確保し、雇用創出や担い手育成に よって、小泉地区の農業を後世に引き継いでいきたいと、18名の地権者に借地の相談をしましたが、全く相手にされませんでした。そんな時に起きた東日本大震災。小泉地区一帯は津波で大きな被害を受けました。農業復興のため、再び地権者に借地の相談をした今野さん。「農具はもちろん、長



1 2haのハウス。太陽光発電も備えています。2 植物育成診断システム、養液供給装置、植物の育成を促す炭酸ガス発生設備など最新鋭の装置を多数導入。3 代表取締役の今野圭市さん。4 トマトが波に乗って売れてほしいと「波乗りトマト・とまたん」という名称とキャラクターをつくりました。5 従業員はトイレに行くまでに5回も靴を履き替えるなど、衛生管理を徹底。6 地元児童に収穫体験を行った際のお礼状。医療従事者へのトマト寄贈などCSRにも力を入れています。

※グローバルGAP認証：食品安全、労働環境、環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践する優良企業に与えられる国際認証

# NOW IS. Vol. 51

発行：2020年8月11日 宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）  
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。